



地域・社会との共生

環境活動や次世代育成支援活動、各地域の課題解決活動に重点的に取り組みます。

2016年度の主な取り組み内容

- ▶ **地域・社会共生活動の更なる充実へ向けた取り組み** …………… P90
 - 地域の皆さまの期待に応え、地域の課題解決に貢献する活動を更に充実させるため、「環境活動」と「次世代育成支援活動」を行う「九電みらい財団」を2016年5月に設立しました。
- ▶ **環境活動** …………… P91～92
 - くじゅう坊ガツル湿原一帯での環境保全活動として、湿原の野焼きなどに、グループ一体となって取り組みました。(5回実施、約600名参加)
 - 山下池周辺社有林「くじゅう九電の森」で、グループ会社との連携のもと、小中学生や親子を対象とした環境教育を開始しました。(19回実施、約700名参加)
 - 環境保全と環境教育を組み合わせた次世代向け環境イベント「Play Forest」を、2016年度から九州各地で展開し、多数の親子に参加いただきました。(8回実施、約4,300名参加)
- ▶ **次世代育成支援活動** …………… P93～94
 - 子どもたちを取り巻く現状や課題を踏まえ、子どもたちや子育て世帯を対象とした支援を行う九州の団体の活動に対し、助成を開始しました。(20団体、総額約1,340万円)
- ▶ **各地域の課題解決活動** …………… P95～100
 - 地域の方々と共に取り組むボランティア活動「こらぼらQでん」は、活動回数や協働先を増やし、より多くの方々と一緒に活動を行いました。(21件30回実施、約2,100名参加)
 - 自治体や経済団体等が行う地方創生に向けた産官学の地域プロジェクト等に参画し、当社グループの知見や技術、マンパワーなどの当社経営資源を活用した協力を行いました。
 - 「平成28年熊本地震」を受け、被災地でのボランティア活動のほか、観光物産展、カタログによる熊本県産品の販売斡旋等、さまざまな形で被災地復興に向けた取り組みを行いました。

2017年度の主な行動計画

- ▶ **地域・社会共生活動の更なる充実へ向けた取り組み**
 - 「九州電力の思い」の実現に向け、「環境活動」「次世代育成支援活動」「地域の課題解決活動」を重点活動として、グループ全体で推進していきます。
- ▶ **環境活動**
 - くじゅう坊ガツル湿原一帯での環境保全活動は、各活動を充実させるとともに、自治体等と連携した新たな活動を展開していきます。
 - 「くじゅう九電の森」での環境教育および九州各地での環境活動「Play Forest」は、より多くの方々に参加いただけるよう、活動回数を増やします。
- ▶ **次世代育成支援活動**
 - 子どもたちの健全育成を応援するための助成事業は、助成先団体の活動を九電みらい財団のホームページ等で紹介するとともに、助成先団体との協働やボランティアなどによる幅広い支援を展開していきます。
- ▶ **各地域の課題解決活動**
 - 「こらぼらQでん」は、企画・実践スキルを向上させ、活動回数・内容ともに充実させて取り組んでいきます。
 - 地域経済の活性化に向け、自治体や経済団体が行う地方創生の取り組みなどに協力していくとともに、まちづくりや地域資源磨きなどの地域固有の課題に対しても、地域のNPOや団体と協働して取り組みます。

地域・社会共生活動の更なる充実へ向けた取組み

地域・社会共生活動基本方針

当社は創業以来、地域社会の発展と地域との信頼関係が当社の持続的発展の基盤であるとの認識の下、「地域・社会共生活動基本方針」を2006年4月に制定し、さまざまな地域・社会共生活動に取り組んできました。

地域・社会共生活動基本方針

九州電力は、快適で豊かな地域・社会の実現と、その持続的な発展を目指し、以下の原則に基づき、良き企業市民として、積極的に地域・社会共生活動を推進します。

- 1 「地域振興」「文化・芸術」「スポーツ」「学術・教育」「社会福祉」「健康・医療」「国際交流」「環境保全」の分野で、魅力ある地域づくりや次世代層の育成などを行うとともに、地域・社会の課題解決に向けた取組みを行います。
- 2 当社の持つ経営資源を有効に活用した取組みを行います。
- 3 活動内容を公表し、皆さまとコミュニケーションを図ることにより、その声を諸活動に反映させるとともに、地域・社会の皆さまとの協働を進めます。
- 4 従業員が一市民として行う共生活動を支援します。

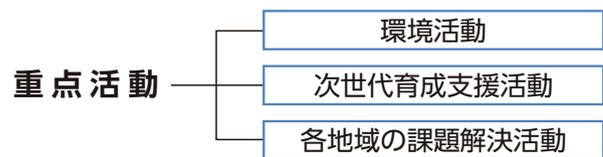
2006年4月制定

2011年7月改正

重点活動の設定による地域・社会共生活動の充実

地域の皆さまの期待に応え、地域の課題解決に貢献する地域・社会共生活動を更に充実させるため、環境保全活動や環境教育などの「環境活動」や、子どもの健全育成に寄与する「次世代育成支援」、地域の皆さまと協力して取り組むボランティア活動『こらぼらQでん』などの「各地域の課題解決活動」を重点活動に定め、グループ全体で推進することとしています。

特に、「環境活動」と「次世代育成支援」については、財団法人「九電みらい財団」を設立し、財団法人の活動を通じて、『ずっと先まで、明るくしたい。』をブランドメッセージとする「九州電力の思い」の実現に向け、今後とも地域への貢献活動に積極的に取り組んでいきます。



「九電みらい財団」の設立

地域の皆さまの期待に応え、地域の課題解決に貢献する活動を更に充実させるため、「環境活動」と「次世代育成支援活動」を行う「九電みらい財団」を2016年5月に設立しました。

本財団では、地域の皆さまと取り組んできたくじゅう坊ガツル湿原での環境保全活動や、当社の水源かん養林を活用した環境教育活動を充実させるとともに、地域の諸団体の皆さまが実施する次世代育成支援活動に対して、助成を行っています。

〔活動内容〕

- 環境活動
 - ・坊ガツル湿原(大分県竹田市)での環境保全活動
 - ・山下池周辺(大分県由布市)での環境教育活動
- 次世代育成支援活動
 - ・地域の諸団体が実施する「子どもの学習支援や子育て世帯支援活動」などの活動への助成

九電みらい財団

検索



環境活動

坊ガツル湿原での環境保全活動（「九電みらい財団」が実施）

くじゅう坊ガツル湿原は、大分県西部に位置し、周囲を九重連山に囲まれた高原性の湿原（約53ha）で、多様な地質・地形を反映した希少な生態系を有することなどから、2005年に国際的に重要な湿地の保全を目的とする「ラムサール条約」に登録されています。

当社は、坊ガツル湿原の保全及びその一帯に生息する希少植物の保護のため、環境省や竹田市、「九重の自然を守る会」など地域の方々との協働により、野焼き活動や外来種駆除活動、隣接する平治岳（当社社有地）のミヤマキリシマ植生保護活動を行っています。

これらの活動は、2016年度から九電みらい財団が主体となって実施しており、今後は野焼き活動の担い手となるリーダーの育成などの充実策に取り組んでいきます。



坊ガツル湿原の野焼き



山下池周辺（大分県由布市）での環境教育活動（「九電みらい財団」が実施）

九電みらい財団は、山下池周辺（大分県由布市）の当社社有林「くじゅう九電の森」の豊かな自然環境を活用し、グループ会社の九州林産（株）と連携しながら、体験型の環境教育を行っており、2016年度は19回実施し、738名にご参加いただきました。

〔「くじゅう九電の森」での環境教育活動〕



林業体験



森林観察



木工教室

この環境教育では、子どもたちの環境保全意識を啓発し、将来の九州の環境保全につなげることを目的として、地球温暖化の現状と森の役割を学ぶ座学と、「林業体験」「森林観察」「木工教室」などの体験学習を組み合わせたプログラムを実施しています。

九州各地での環境活動「Play Forest」

子どもたちの環境を大切にすることを育むため、九州各地の森で「学ぶ」「守る」「楽しむ」の要素を織り込んだ環境活動『Play Forest』を2016年度から実施しています。

各地の環境団体や企業の皆さまと一緒に、子どもたちがワクワクするようなブースを準備し、これまでたくさんのご家族が参加され、森の中で楽しみながら、自然の大切さを学んでいただきました。

今後も、このような体験を通じて子どもたちが自然や環境のことを大切に感じてくれるよう、2017年度は開催頻度を拡充し、九州のいろいろな森で展開していきます。

●活動実績(2016年度)

地区	日付	会場	来場者数
北九州	2017年3月12日	北九州市立山田緑地 (北九州市小倉北区)	737
福岡	2016年5月15日	福岡市立油山市民の森 (福岡市南区)	545
	2016年11月23日	古賀グリーンパーク (福岡県古賀市)	775
佐賀	2017年2月26日	佐賀県立森林公園 (佐賀市)	909
長崎	2016年11月5日	徳泉川内里・山・村 (長崎県大村市)	146
熊本	2017年3月5日	美里町ガーデンプレイス (熊本県下益城郡美里町)	524
宮崎	2016年10月23日	法華嶽公園 (宮崎県東諸県郡国富町)	214
鹿児島	2017年3月19日	鹿児島市立少年自然の家 (鹿児島市)	451
合計			4,301

ホームページ

企業・IR情報⇒会社情報・CSR⇒CSRの取組み⇒地域・社会との共生⇒Play Forest



間伐材を活用した「マイ箸づくり」



ロープで木に登る「ツリーイング」



竹に巻いた生地を焼く「くるくるパン」

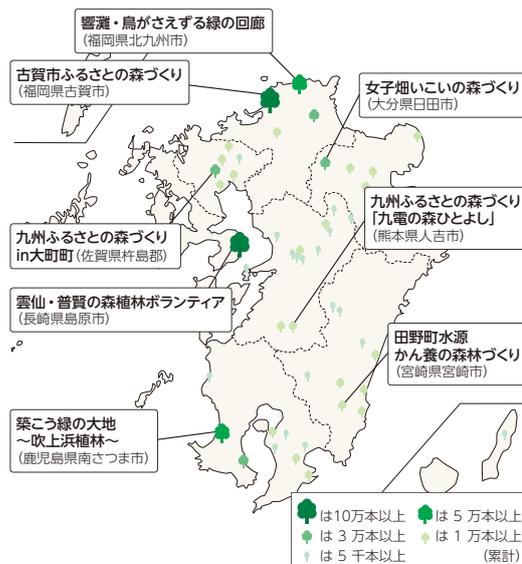
●15年間実施してきた「九州ふるさとの森づくり」

「九州ふるさとの森づくり」は、2001年度から取り組んでいる植樹や育林活動*で、低炭素社会の実現や生物多様性の保全を目的として九州各地で実施してきました。

2015年度でこの取り組みは一旦終了することとなりましたが、これまでの15年間で延べ642か所で約117万本もの苗木を植樹し、約15万人の方々にご参加いただきました。

*植樹した苗木の成長を助けるため、植樹後3年程度、苗木の周りの下草刈を行う活動。

●これまでの主な植樹箇所



次世代育成支援活動

NPOなどの諸団体が取り組む次世代育成支援活動への助成事業(「九電みらい財団」が実施)

九電みらい財団は、少子高齢化や共働き世帯の増加、地域のつながりの希薄化などにより、子どもたちの育成環境が大きく変化する中、九州の未来を担う子どもたちの健全な成長を応援するため、NPOなどの諸団体が取り組む次世代育成支援活動への助成事業を実施しています。2016年度は67件の応募があり、選考委員会での選考を

経て、20件の活動に助成しました。

また、それぞれの助成先の素晴らしい活動を広くお知らせすることも助成事業の目的としており、活動を取材し、各団体の活動の様子や活動にかける思いを九電みらい財団のホームページで紹介しています。

【募集した活動】

・子どもたちへの支援活動

体験を通じて、子どもの社会性や協調性、規範意識などを育むこと、及び九州地域を大切にする子どもの育成を目的とした活動

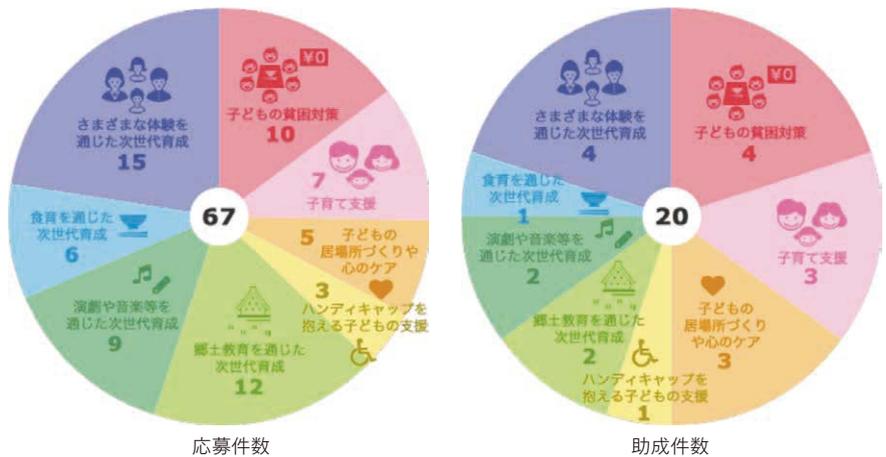
・子育て世帯への支援活動

共働き世帯や非正規雇用の増加、地域のつながりの希薄化など、子育て世帯を取り巻く厳しい状況を緩和することを目的とした活動



助成団体応募チラシ

2016年度 活動分野別の応募・助成実績



【2016年度の助成先団体】



団体名: 山鹿もてなし隊(熊本)
活動名: 「山鹿の子ども達」わくわく発信事業



団体名: きんしゃいきゃんぱす(福岡)
活動名: 地域に開かれた日常的な子どもの遊び場「きんしゃいきゃんぱす」



団体名: NPO法人 心音(鹿児島)
活動名: 離島の生活困窮世帯の子どもへの学習支援活動

子どもたちが演劇や授業等を通じて、山鹿の魅力を発見し、市民や観光客へその魅力を発信することで、子どもを中心とした町おこしを図る。

商店街の一店舗を借り、日常的な遊び場を地域に開放することで、年代を問わず、幅広い子どもたちにとっての居場所づくりを行う。

沖永良部島は学習塾が少ないことから無料の学習塾を設けるとともに、ひとり親家庭などで悩む親が子育てについて相談できる場を作る。

次世代層支援プロジェクト「九電みらいの学校」

九州の子どもたちに、エネルギー・環境や文化・芸術等に関する学びや出会いの場を提供し、子どもたちの好奇心を刺激するとともに感性を豊かにすることを目的に、活動を展開しています。



◎ 出前授業

小学校高学年から中学生を対象として、当社社員等が講師となって学校で授業を行う「出前授業」に取り組んでいます。

「電気をつくる仕組み」や「省エネ」など、4つのテーマについて、見て、ふれて、体験しながら、エネルギーに関する生きた知識を、子どもたちに身につけてもらっています。

2016年度は、計479回、19,000名以上の子どもたちに学んでもらうことができました。

◎ エコ・マザー活動

子どもたちへの環境教育支援と保護者の皆さまへの環境情報の提供を目的とする「エコ・マザー活動」に取り組んでいます。

この活動は、九州各地で地域のお母さま方が「エコ・マザー」として保育園などを訪問し、環境紙芝居の読み聞かせ等を行い、小さなお子さまに環境への配慮の大切さを伝えています。

2016年度は253回、およそ20,000名のお子さまや保護者の皆さまにご参加いただきました。

なお、これまでの14年間で、計3,400回以上実施し、約24万名の皆さまにご参加いただいています。

◎ 運動部によるスポーツ教室

当社の「シンボルスポーツ」であるラグビー部「キューデンヴォルテクス」では、地域の皆さまから愛され、親しまれるチーム作りを行うとともに、小学校の体育授業におけるタグラグビー教室やイベントへの参加など、ラグビーを通じた地域スポーツの活性化に取り組んでいます。2016年度は、99回、8,900名以上の皆さまにご参加いただきました。

また、バスケットボール部「九州電力アーティサonz」でも、バスケットボール教室を開催しており、「柔道部」や「テニス部」などでも、スポーツを通じて、地域の子どもの育成に取り組んでいます。



出前授業



エコ・マザー活動



小学校の体育授業におけるタグラグビー教室(福岡県田川郡)



各地域の課題解決活動

九州各地における地域の皆さまとのボランティア活動

NPOや地域の方々と協力して取り組むボランティア活動「こらぼらQでん」を九州各地で展開しています。

2016年度は、九州全域で計21団体と計30回の活動を行い、約2,100名の方にご参加いただきました。今後も、地域が抱える課題の解決に向けて、より多くの地域の方々と一緒に取り組んでいきます。

名称とロゴマーク



「こらぼら」とは、「コラボレーション」と「ボランティア」を掛け合わせた造語です。

どんぐりからの苗づくり「どんぐりポッケ」

～こらぼらQでん×NPO法人 北九州ビオトープ・ネットワーク研究会～

2016年11月に響灘緑地グリーンパーク(北九州市若松区)において、どんぐりの苗ポットづくりボランティア「どんぐりポッケ」を開催しました。

参加した子どもたちは、森の中のどんぐりと動物の生態や役割について説明を受けながら、夢中でどんぐりを拾い、どんぐりの苗ポットを作りました。

子どもたちが作った苗ポットは2年をかけて育てた後、北九州市が毎年3月に行っている「響灘緑の回廊植樹会」にて植樹する予定です。



北九州

三池港クリーンアップウォーク

～こらぼらQでん×NPO法人 大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ～

2016年9月に大牟田市の三池港周辺でクリーンアップウォークイベントを開催しました。世界遺産に登録された三池港や三川坑等の近代化遺産を巡りながら、周りをキレイにし、地域を盛り上げていくイベントです。

大牟田市内の高校生を中心に100名を超える方々に参加いただき、強い日差しの中、汗を流しながら、ゴミ拾いを行いました。

今後も、貴重な地域資源である炭鉱のまちの風景を次の世代に継承していくために、世界遺産クリーンアッププロジェクトを継続していきます。



福岡

ふれあいフェスタ 2016

～こらぼらQでん×ふれあい町づくり実行委員会～

2016年12月に、佐賀駅北部をもっと明るく、活力ある街にするために、ふれあいフェスタ2016を開催しました。当日は、地元の団体や高校生による和太鼓、吹奏楽などの演奏、福祉事業所による軽食の販売、佐賀市のパイオマスPRブースなど、多くの協働先とのこらぼが実現。子どもから大人まで1,200名以上の来場者でにぎわいました。来場者から、「地域に根付いたイベントにして欲しい。」といった期待の声をいただいております。今後も佐賀駅北部地域の活性化や地域文化の伝承に向けて継続的に開催していきます。



佐賀

みんなが集い、学べる里山づくり

～こらぼらQでん×NPO法人 おおむら里山村づくり委員会～

長崎県中に位置する大村市の景観豊かな里山で、山林保全や体験農園などを通じて、里山の多様な恵みを体験できる「みんなの共有地」づくりを行いました。

2016年5月のさつまいもづくりには地域の幼稚園生を含む約60名が参加。土に触れることができた喜びの声などをいただきました。同年9月には敷地内の遊歩道整備や除草を、翌年2月にはクヌギや桜の植樹、椎茸の駒打ちなどを行いました。

今後も活動を継続し、この里山を、大人や子どもが集い、共に学ぶ人材育成・環境学習の場にしていきたいと考えています。



長崎

海ガメが来る豊かな里海をみんなで守ろう

～こらぼらQでん×NPO法人 おおいた環境保全フォーラム～

2016年9月に佐伯市で、海ガメの産卵が見られる間越(はざこ)海岸の豊かな自然を次世代に残していくために、保安林整備と海岸清掃を行いました。

午前中は、地域の方々当社グループ社員とで力を合わせて、保安林の下草刈りや漂着ゴミの清掃を実施。お昼には、地元漁師の奥さま方が作った昼食を参加者一同おいしくいただきました。午後からは、森と海の講話や海ガメ観察、漂着したガラス片を使った工作を行いました。

この活動が、豊かな里海を守るとともに、地域の方々がこの里海を大切に思う気持ちを育むきっかけになることを願っています。



大分

世界遺産「三角西港」清掃ボランティア

～こらぼらQでん×三角西港ファン倶楽部～

2016年11月に、宇城市の世界遺産「三角西港」で清掃ボランティアを行いました。

三角西港は明治20年に完成。130年経った今も、石積みの埠頭など、当時の面影を強く残しており、是非訪問して欲しいスポットです。

当日は、地域の方々当社社員約100名で、文化財の清掃や高所作業車による街路灯の清掃などを実施。清掃後は、観光ガイドの案内のもと、港内を散策し、歴史的な街なみの素晴らしさを体験しました。

今回のような活動を通じて、地域の貴重な資源である三角西港がさらに多くの観光客でにぎわうようになればと願っています。



熊本

地域に開かれた学校づくりをお手伝い

～こらぼらQでん×西都市都於郡(とのおおり)中学校～

2016年11月、12月に、西都市の都於郡中学校で、生徒や地域の方々交流できるスペースづくりを行いました。

2回にわたり、当社社有林の間伐材やダムへの流木を活用した丸テーブルや丸イス、プランターケースの製作を実施。生徒たちは初めての丸太の皮むきに苦戦しながらも、自分たちの手で作り上げた製作物に愛着を持った様子。

校長先生からも「今回の活動は、リサイクルや環境問題に関する良い教材になった。」とのお言葉をいただきました。

生徒たちと一緒に作ったテーブルやイスを、地域の方々の交流の場で活用していただければと考えています。



宮崎

竹林を整備し、安全安心な街づくり

～こらぼらQでん×扇尾地区会、NPO法人 かごしま自然学校、いちごいち笑～

2016年12月、日置市の深固院(しんこいん)跡で竹林整備を行いました。

地域の方から、「高齢化の影響で竹林の整備が進まずに困っている。」という声をいただいたため、地域の方々と一緒に竹の間伐などを実施しました。

その後、間伐した竹を活用し、廃校となった扇尾小学校で門松や竹とんぼづくりなどのワークショップを開催。子どもたちは、慣れない手つきながらも「いろいろな体験ができてとても楽しかった!」と満足な様子でした。

今後も地域が抱えるお困りごとを解決するため、地域の方々と一緒に取り組んでいきます。



鹿児島

地域振興への協力

産学官民で連携して行う地域プロジェクト等に対して、当社グループのノウハウや知見を活用し、積極的に協力しています。今後は、自治体等が行う「地方創生」の取組みなどに協力していくとともに、まちづくりや地域資源磨きなどの地域固有の課題に対しても、地域のNPOや団体と協働し、地域経済活性化に向けて取り組んでいきます。

●産学官民で行う地域プロジェクト「浮羽まるごと博物館協議会」 (福岡県うきは市)

橋詰発電所をはじめ3つの水力発電所が立地するうきは市では、地域住民の皆さま、うきは市、九州大学及び当社との4者間において、地域資源を活用したまちづくり推進の協定を締結し、協議会に参画しています。

地域住民の皆さま自身が、地元にある資源の価値を再認識しながら活動することを目的とし、うきは市の宝物を紹介した小冊子「うきはの葉」の刊行、自然エネルギーを利用した水力発電所の仕組みを説明する見学会、大正時代に活動した日本初の市民劇団「嫩葉(わかば)会」に思いを馳せた講演会の開催などを行っています。



「嫩葉(わかば)会」に関するパネルディスカッション

●熊本県との共催による観光振興の取組み(熊本県)

夏目漱石の生誕150年、没後100年にあたる「漱石記念年」(2016年-2017年)が、漱石が英語教師として熊本に着任して120年目にあたることから、熊本県では、「熊本の漱石」を印象づけ、来訪者増加につなげるため、さまざまな観光振興の取組みが行われています。

当社でも、2017年3月、熊本県と共催で、夏目漱石をテーマとした地域活性化・観光振興のイベントを実施。漱石の旧居を訪れるウォーキングや、漱石が好きだった「絵はがき」にちなみ、絵はがきづくりワークショップなどを開催しました。



漱石の旧居を訪ねるウォーキングイベント

熊本地震被災地の復興支援に向けた取組み

熊本地震の復興に向けて、様々な活動を行っています。

2017年3月までに、延べ689名の社員が被災された個人宅の片付けやがれき撤去などを実施しました。

グループ会社の九電旅行サービスでは、グループ会社社員を対象に、ボランティア・観光・情報発信の3点で被災地に貢献する「トリプルボランティアツアー」を実施。4回で約120名が参加しました。

11月には、JR博多駅内の商業施設で観光物産イベントを開催するとともに、福岡市天神地区で「阿蘇復興支援ブース」を出展。被災された事業者の皆さまが熊本県産品を販売され、多くの方にお買い求めいただきました。

また、2017年2月には、熊本県産品を集めたカタログを作成し、当社のネットワークを活用して広く購入斡旋を行いました。

これからも、被災地に寄り添い、さまざまな形で熊本地震の復興に向けた取組みを行っていきます。



割れた瓦の撤去作業

熊本復興応援カタログ



支援物資の運搬作業



復興支援観光物産展(博多駅)

地域に根ざした活動

地域社会の一員としての役割を果たすとともに、地域の皆さまとのコミュニケーションを深めていくため、地域行事への積極的な参加や、コミュニティの安全・安心の取組みを行っています。

● 地域のまつりへの参加

地域活性化や、地域の皆さまとの絆を深めるため、各事業所やグループ会社の社員が地域のまつりへの参加・運営のお手伝いを行っています。

● 2016年度 まつり参加実績

参加者数(社員)：延べ約3,000人



わっしょい百万夏まつり(北九州支社)

● 独り暮らしの高齢者のお宅等の配線診断

九州各地において、地域の社会福祉協議会や電気工事業協同組合、教育委員会等の皆さまとの協働により、重要文化財や独り暮らしの高齢者のお宅の配線診断を行っています。

● 地域の清掃活動

九州各地において、高所作業車を使い、城壁や神社の鳥居、地域の街路灯など、普段は手の届かない場所の清掃活動を行っています。



太宰府市国博通り街路灯清掃(福岡南配電事業所)

寄附を通じた地域・社会への貢献

九州全域を事業エリアとし、九州の皆さまをお客さまとする当社は、「地域と共に歩み、共に生きる」という考え方のもと、地域社会の発展につながる社会貢献活動の一つとして、一企業市民としての適正な寄附活動を行っています。

2016年度 寄附総額	自治体条例等に定める 救済事業への拠出	26百万円 (23%)
115百万円	地域・社会共生活動 としての寄附(詳細は右表)	89百万円 (77%)

(注)百万円未満は四捨五入しており、内訳と総額の数値が合わない場合があります。

● 地域のスポーツ大会への支援

地域におけるスポーツ活動の活性化やレベルの向上を図り、明るく健康的な地域社会を形成するため、青少年を対象としたスポーツ大会等の支援を行っています。

● 2016年度 スポーツ大会支援実績

26事業所、28大会、13種目、参加約8,500名

● 地域見守り活動

地域密着の事業形態の特長を活かし、自治体・関係団体との協定や覚書の締結等により、地域の見守り活動や防犯活動への協力を行っています(106のネットワークに参画)。

2016年度は、高齢者等の見守り活動において、九州全域で19件の通報を行いました。

● 「子ども110番」活動への協力

「子ども110番」活動への協力など、子どもが犯罪に巻き込まれない環境づくりを九州全域で行っています。



のぼり

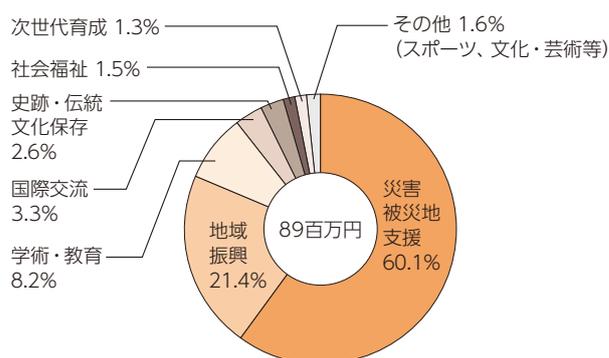


子ども110番ステッカーを貼付した車両

● 不法投棄パトロール

業務用車両での移動中などに廃棄物の不法投棄を発見した場合、自治体へ情報提供を行う「廃棄物の不法投棄対策に関する協定」を延べ47の地元自治体と締結し、環境美化の保全に協力しています。

● 地域・社会共生活動としての寄附内訳(2016年度)



グループ会社と一体となった地域・社会共生活動

収集ボランティア活動

書損じ・未使用ハガキや使用済切手、外貨を収集する「収集ボランティア活動」をグループ会社と一体となり、毎年実施しています。収集物は、地域のNPOやボランティア団体など、地域・社会の課題解決に取り組む団体に寄附しています。

収集物寄附先(2016年度)

〔書損じ・未使用ハガキ〕

- 収集枚数 … 4,086枚(約209,100円相当)
- 寄 附 先 … 認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会

〔使用済切手〕

- 収 集 量 … 約47kg(約23,600円相当)
- 寄 附 先 … 福岡市社会福祉協議会ボランティアセンター

〔外貨〕

- 収 集 額 … 約146,600円相当
- 寄 附 先 … 公益財団法人 日本ユニセフ

子どもくるくる村in九電

2016年6月、NPO法人循環生活研究所と協働で、子どもたちが就業体験を通じて仕事とお金の関係や循環型社会について学ぶイベント「子どもくるくる村」を、電気ビル共創館(福岡市)で開催しました。「子どもくるくる村」は子どもたちがお仕事を体験し、働いて得た給料(擬似通貨)で買い物やゲームができるイベントで、2000年から同法人が実施しています。

当社からは高所作業車への搭乗や電柱の上に作られたカラスの巣を撤去する「電気屋さん」を出展、当社グループ会社からも、九州林産(株)による「おはし工房」や記録情報マネジメント(株)による「はがき屋さん」などのブースを出展しました。また、運営スタッフとして、グループ会社18社から74名のスタッフが参加しました。

当日は約600名の子どもたちが参加し、笑顔いっぱいであらゆる体験するお仕事を楽しんでいました。



電気屋さん



おはし工房



はがき屋さん

TOPICS

希少植物保護活動 ～九州林産(株)～

九州林産では、九州電力社有林内に自生する希少植物の保護活動を展開しています。

大分県くじゅう連山の平治岳には、希少植物のミヤマキリシマが自生しています。6月頃には山一面をミヤマキリシマの花が覆い、その美しさで多くの登山者を魅了していますが、近年はノリウツギ等の植物に被圧され、減少傾向にあり

ます。そこで、九電みらい財団と協力して、ノリウツギの伐採等を行い、ミヤマキリシマの保護を行っています。

この他にも、九州電力社有林内には、トキソウ、サギソウ、サワギキョウなど希少植物の生育に必要な環境が残っています。希少植物という財産を次世代に引き継ぐという強い思いを持って、保護活動を継続的に行っています。



ミヤマキリシマ(平治岳)



ノリウツギ等伐採の様子



トキソウ



サギソウ

従業員が行うボランティア活動の支援

従業員の積極的なボランティア活動を支援するため、ボランティア休暇制度(年間7日間)や活動費用補助、社内掲示板での情報提供などの環境づくりを行っています。

これらの制度を活用するなどして、2016年度は延べ約5万人の従業員がボランティア活動に参加しました。

また、これまで長期間にわたる地道な地域社会貢献活動を表彰してきた「地域社会貢献者表彰制度」は、2015年度から、短期間の多種多様なボランティア活動も表彰対象に加えています。

● ボランティア休暇制度・地域社会貢献者表彰実績

年 度	2013	2014	2015	2016
ボランティア休暇取得実績(日)	146	258.5	147	433
地域社会貢献者表彰(人)	19	16	20	26



地域の皆さまとともに、
課題解決に貢献していきます。

社員の思い



福岡支社エリアでは、これまで、「Play Forest」を3回、「こらぼらQでん」を16回開催し、延べ約4,300名の社外の皆さまにご参加いただきました。毎回、募集開始後、あっという間に定員を超えるほどの人気のイベントで、私たちは、喜びとともに、皆さまの期待に応えなければならないプレッシャーの中、手作りで企画内容を考えています。

これからも、子どもたちへの環境教育や、地域のさまざまな課題の解決に貢献する活動を企画し、皆さまにご案内していきます。

多くの方々のご参加をお待ちしています!

福岡支社 企画・総務部 総務グループ **みのだ だいすけ 袁田 大輔**

